

## 1. はじめに

前回の環境保全において、山口大学の実験系の建物に pH メーターを設置計画および設置状況について、施設部からの情報を基に排水処理センターの矢吹義文氏にまとめて報告してもらった。建物から出てくる実験排水の pH モニター結果については、別の話題で取り上げた。ここでは、前回の環境保全以降の設置状況について述べる。一部重なる部分もあるが、新しく pH 計が設置されている場所をもう一度確認する意味で載せた。これを基に学内を移動する際に pH 計がどこに設置されていて、どの建物の pH を監視しているか興味があったら見てもらいたいと思う。排水の pH 計は誰でもすぐに pH の値を読むことが出来るよう設置してある。

## 2. pH 計の設置経緯

### 2・1 吉田地区

吉田地区の pH 計は 2002 年 12 月に設置され、2003 年（平成 15 年）4 月から試験テストも終わり本稼働し現在に至っている（図 1）。PH の管理清掃については、モニター施設の管理業者に行ってもらっている。PH 異常値の記録は各学部の事務の方へお願いしており、吉田地区の集計は排水処理センターで行っている。

### 2・2 常盤地区

常盤地区では、現在までに新築および改修工事を経て 3 期に分かれて設置された。SVBL 棟、インキュベーション棟、地域共同棟は設置後 2003 年 4 月から稼働、電気電子棟、総合研究棟は 2003 年 12 月から稼働、工学部の本館前半分の改修工事も終わり、機械社建棟も完成し 2004 年（平成 16 年）4 月から稼働した。これで当初の計画案分は pH 計の設置は完了した。しかし、化学系が使用する他の建物については、今後考慮する予定のままで聞いている（図 2）。PH の管理清掃については現在の所、予算の確保が出来ないためそのままの状態である。

### 2・3 小串地区

小串地区では医学部関連の医学部本館、臨床実験施設、基礎研究棟、共同研究棟、臨床研究棟および新設の総合研究棟に pH 計が設置され 2003 年 12 月から稼働した（図 3）。残りの保健学科 A 棟、新中央研究棟は設置の予定はまだである。PH の監視については、小串地区のエネルギー等を管理している業者に行ってもらっている。この小串地区では pH 異常値が発生したとの連絡は排水処理センターにはない。吉田地区とは全く違って優秀なところである。pH の清掃については、常盤地区と同様に現在の所予算の確保が出来ないため、清掃しないままの状態である。

## 3. おわりに

各地区によって現状は異なるが、3 年前に実験系の建物の排水に pH 計を設置しようと当初考えられた場所には一部を除いて pH 計が設置されたことになる。当初から必要であろうと思われる所に設置計画がなかった事については、今後の課題として残った。また設置後の維持管理については、ほぼ管理されている吉田地区、逆に設置後十分に管理できていない常盤地区および小串地区があげられる。常盤地区および小串地区は維持管理のための費用が十分確保できていないことが明らかになっている。次に pH のモニターおよび記録の問題である。この問題については、吉田地区の現状について別のところで詳しく述べているが、いずれの地区も 24 時間 pH 計は稼働しているにもかかわらず記録は行っていない。PH 異常が発生しない場合には記録をしなくても良いことではなくて、大学の排水の pH を記録をすることが必要だと思われる。

最後になりましたが、重ねて各地点において排水の pH 異常が発生しないことを願っている。前回も述べたようにこれは、山口大学がむやみに化学物質を流していないという証拠を記録する目的で作られた物と排水処理センターでは考えている。

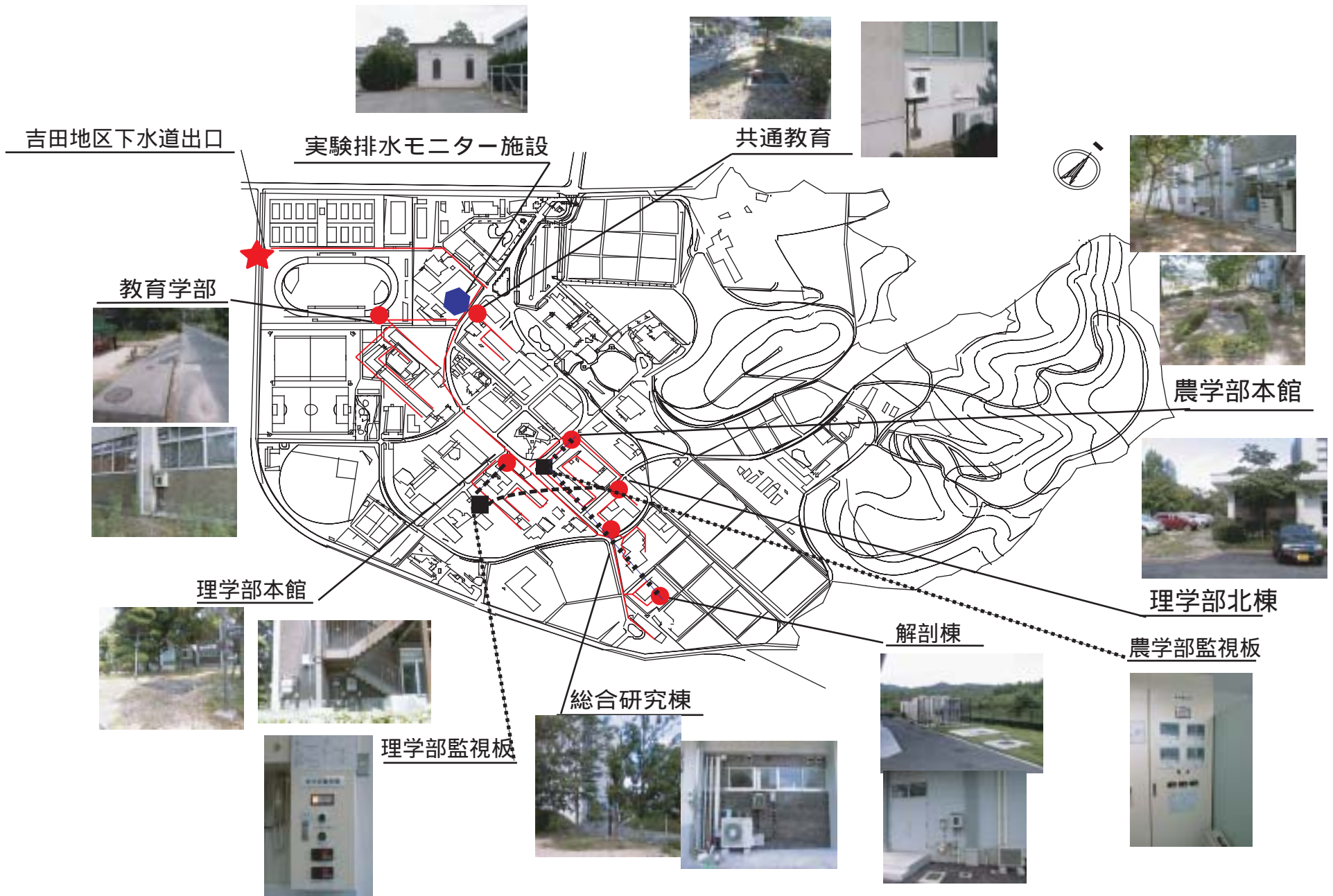


図1 吉田地区のpH計設置場所および実験排水の流れ

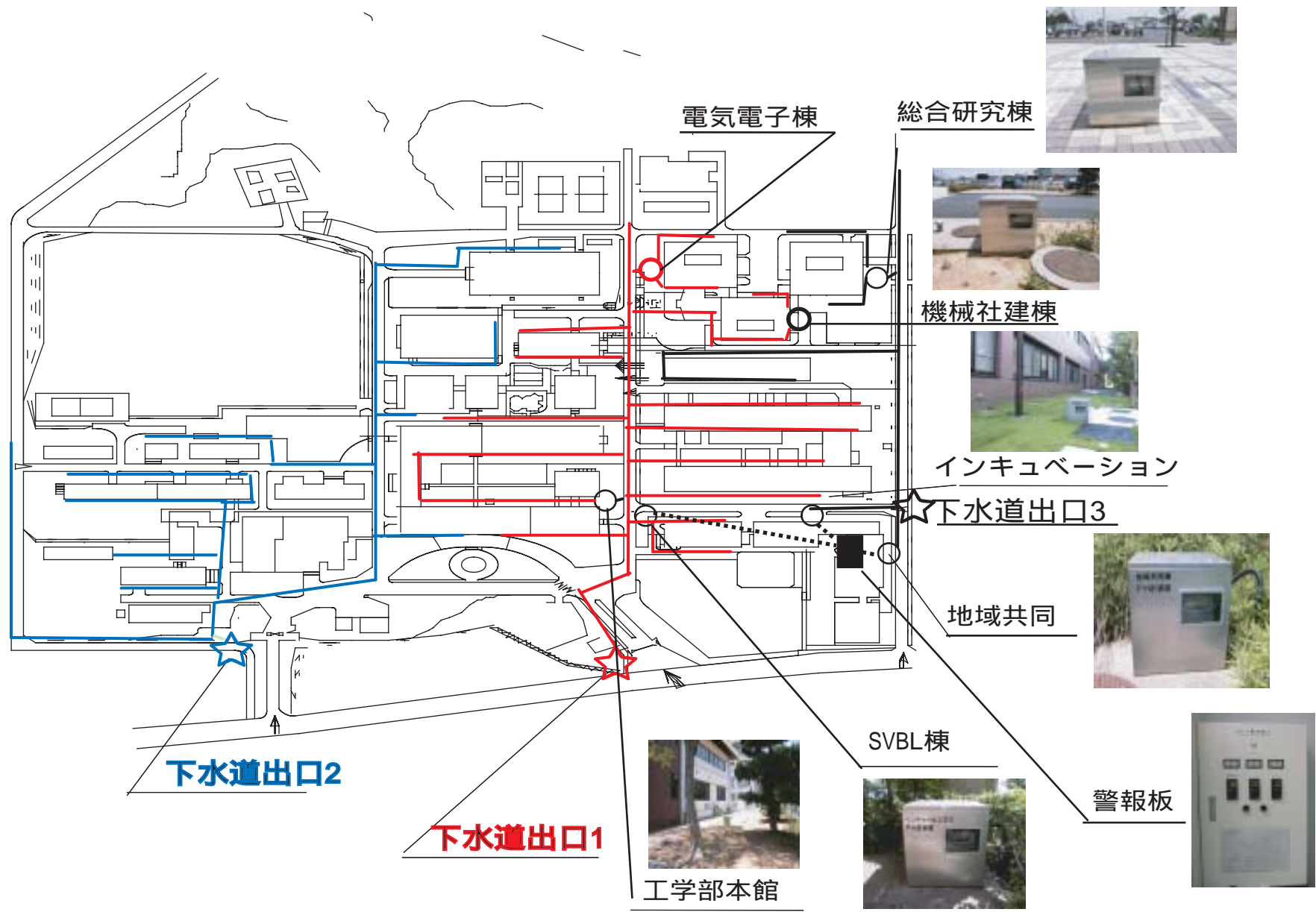


図2 常盤地区のpH計設置場所および実験排水の流れ

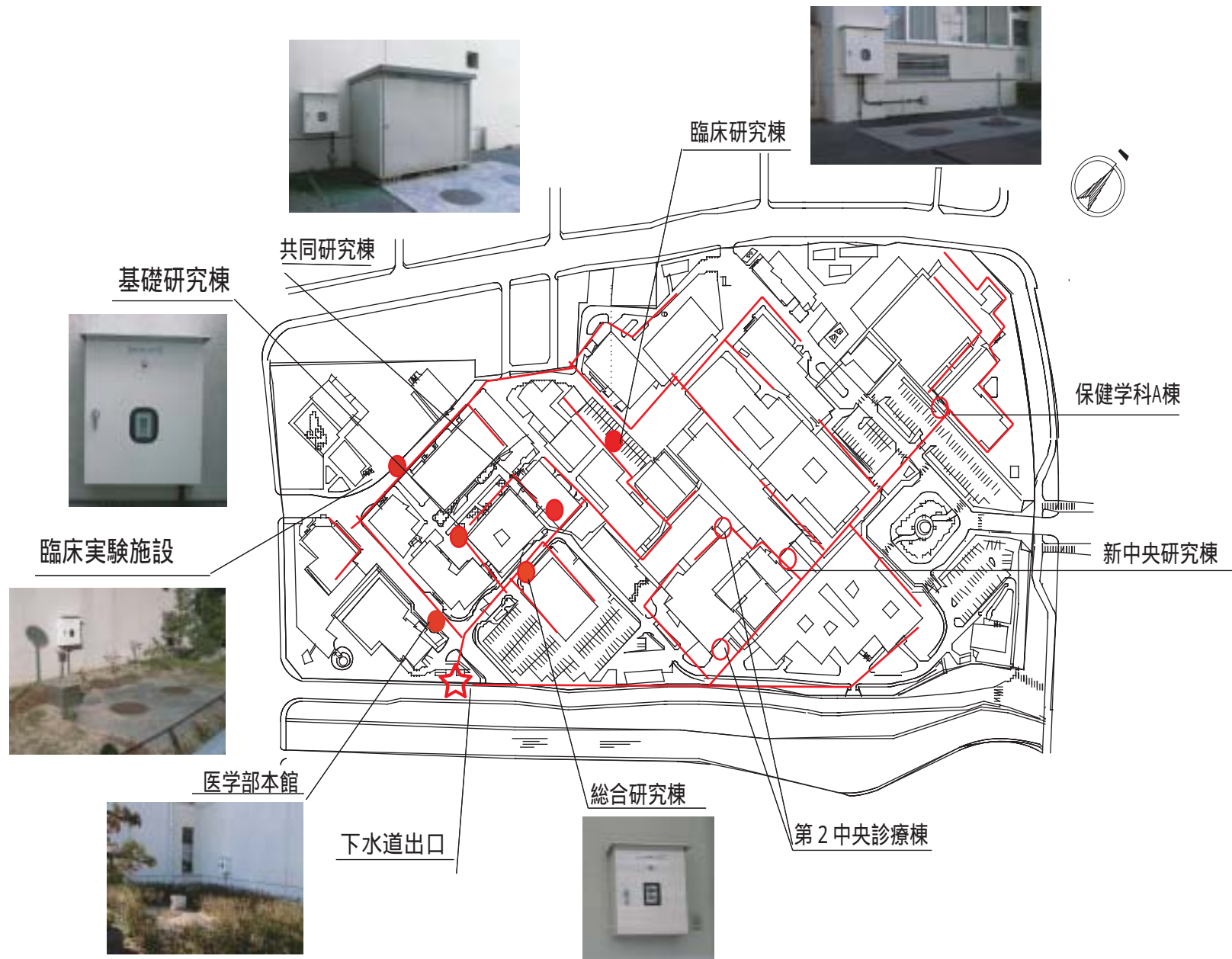


図3 小串地区のpH計設置場所および実験排水の流れ